

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025
佐倉市 錦木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	草津の湯	渡邊 麻美	夢見る星空	宮本 定雄
3 ページ	感じるままに、思いつくままに(2)	柴田 伸一	河童の川流れ?	村田 長保

浅草の思い出

大蔵 康次

私の本棚には、アルバムが割合きちんと整理されて収められていきます。中学生の頃までは、ほとんど集合写真だけでした。高校生になると愉快なスナップ写真もあり、いつも懐かしい思いで見えています。その中に、セピア色になった一枚の写真がありました。それがいつの間にか見当らなくなり一寸気になっていきます。

私達家族は、昭和十七年から十八年にかけて、下谷二長町の伯父の家ちようちまちに同居していましたが、現在の台東一丁目辺りになりました。写真は、短い浅草の時のものです。さまざまに格好をした数人の子供たちと、緊張した顔をして写っています。それは、私の幼い時の、たった一枚だけの写真なのです。子供達の顔、背景になっっている倉庫のような建物、誰が撮ってくれたのか、残念ながらもったくわかりません。

当時の記憶は、家は二階建ガラス戸を開けると土間があり、目の前に二階へ上がる階段がありました。上で数人の人達が仕事をしており、私は階段を上がったり、下りたりして遊んでいました。近くには、映画館や商店街があったのを覚えております。

終戦後、焼跡に行きました。が、水道管がたった一本立っているだけで、土地がとても狭く感じ、妙に感傷的な気分になってしまった事を思い出します。

先日浅草へ行ってみました。JR浅草橋駅下車「清洲橋通り」を北へ十分。左へ入る道路があり、家が建っていた場所は、特定出来ませんが、写真にあった道路

は、間違いなくこの道だ、と確信いたしました。そば屋の主人の話では、映画館は道路入口のT字路にあり、しかも三館もあつたそうです。北へさらに三百メートルと「佐竹商店街」の看板が見え、斜めに入るアーケードに憶えがあり、一瞬、感激いたしました。長さが、四百メートルもあり、古い店が多く、文字通り下町の風情がいっぱいです。戦前、この地域は、浅草第二の繁華街としてたいそう賑わっていたそうです。アーケードの途中、焼野原となつてしまつた浅草地区の大きな航空写真が張っており、今更ながら、戦争の空しさを強く感じました。

東京の下町文化を代表する浅草は、近年新しく地下鉄が開通し、東の方向にはスカイツリーが徐々に大きく見えてきました。外国の観光客も増えていくようです。これから、古くて新しい浅草の町を、味わいながら散策してみたいと思いました。(編集委員)

草津の湯

今年の二月、佐倉は雪国だった。大きい雪が舞い、あまりにも寒く、首をすくめる思いだった。そんな中、私達は、草津へと旅立った。「この寒い日、きつと草津も雪だろうね」と友人が言っていた。

バスで草津へむかう中、何度か休みをはさみ、高速を順調に走る。

高速を抜け、最後にドライブインを抜け草津へと入った。その辺りは、あまり雪がなくて暖かい印象であった。

暖かいのだろうか、思いめぐらす中、山に入ると冷たい風がふきおろしている。山をバスが登ると、窓の外を、雪の白が占めはじめた。

木の根元、枝の上、店々の看板を、雪がかくしている。やはり、ここは草津、山の上は雪国であった。

友人と、温泉についたなら、まずは湯畑にいこう、そう予

定をたてていた。その日の宿に着き、窓をあけると、つららが数本、輝いていた。陽光にすけて、光り輝き、先端にむけ、美しい水の滴が滑っている。草津に来て良かった。まず、お茶をのみながら思った。私達は厚着を少しといて、湯畑へむかう。土産屋の通りを抜け、風花の舞う中、硫黄の臭いの源へとたどりつく。湯が川のように滝の様に湧いては流れている。私は今まで、この光景を見た事がなかった。湯畑のセブイレブンは、茶色である。友人と語らないから「西の河原」へむかい、温泉をいただく。念願の雪見風呂だ。空気が冷えて湯気が陽をすかしてゆらめいている。それはそれは、良いお湯だった。

草津よいとこ

一度はおいで

まさにうたの通りだ。

私はそう思った。

(鍋木町 渡邊麻美)

夢見る星空

宇宙や星の魅力に、初めて気づいたのはいつだったろう。

「銀河鉄道の夜」やSF小説「鉄腕アトム」や「宇宙戦艦ヤマト」といったあの素晴らしいアニメーションなど、そして、「2001年宇宙の旅」や「スターウォーズ」、「アポロ13」などの映画が、きっかけだったかも知れない。

或いは、宇宙飛行士が宇宙空間で、ミッションを行っていたニュース映像を見たときだったかも知れない。

いや、そうではないはずだ。幼い頃から生まれ故郷信州の安曇野の澄んだ夜空の下、積み上げられた藁の上に、仰向けにござりと寝ころんで、何度も無心で天の川や幾つもの流れ星を眺めていた時だった。今でも時々夢にまで現れるきれいなあの天空の星。

そして、終戦後上京。渋谷で初めて見たプラネタリウム

の感動も忘れがたい。

アポロ11号が月面着陸した一九六九年から四十一年目。今日では、宇宙旅行券が発売される世の中である。

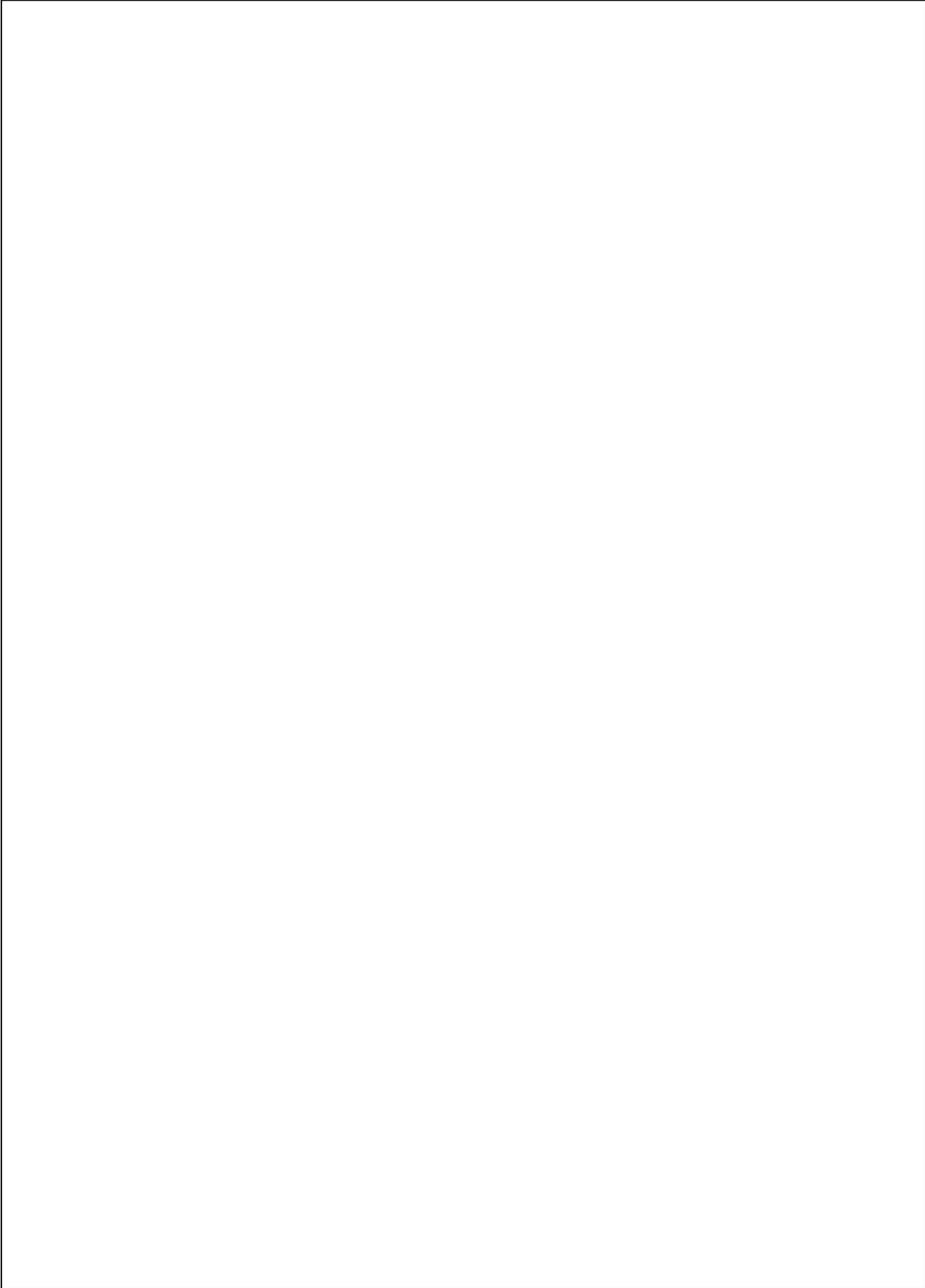
宇宙ステーション滞在ツアーは二十四億円、五分間の宇宙飛行は千二百万円とか聞く。宇宙はまだまだ誰もが簡単にに行ける場所ではないのかも？ けれども夢見ることはできる。空を、その先に続く宇宙を思うこと。そしてそれは、サイエンスにつながっている。今より、大きな視点に立って考えていくことが、サイエンスの基本だからだと思ふ。

空を通じて、これからの地球環境のこと、生活を便利にする技術のことを考えてみるのもいい。ただ美しい星を眺め楽しむだけだっただけいい。

さて、みなさんは空の星や宇宙を眺めて、どんなことを思いますか？

(千成 宮本定雄)





感じるままに、 思いつくままに(1)

二〇一〇年五月二十日

朝から静かに雨が降っていますね。こんな日は心が内向し、落ち着きます。この静かなひと時を大切に過ごしたいものです。あなたは如何お過ごしになっていきますか。

昨日久しぶりに朝鮮の陶磁に会いました。懐かしくほつとした気分になりました。いつも李朝の白磁の壺に心を奪われてしまいます。「日本民藝館」の白磁の壺は玄関横に何気なく置かれていました。初めて出会ったのに旧知の間柄のように何も言わなくても心が通じ合う気がしました。企画展がなくても静かで落ち着いた「日本民藝館」で時間を過ごされたら如何でしょうか。

五月二十一日

昨日の雨はすっかり上がり、真夏のような日差しが朝から照りつけていますが空気が乾

燥していて過ごしやすいですね。このような日はあなたは何をなさっていますか。

今朝、畠中恵さんの『まなまこと』を読み終えました。「まなまこと」とは江戸言葉で「真真事」、本当のことだそうです。読書ノートに感想を書くとするば、話の筋は面白く、江戸の町名主の役割が良く理解できたと書くところでは、江戸時代の古文書の勉強を始めたばかりですが古文書を読むと、江戸時代は現代以上に共同体がスムーズに運営されていることが分かり驚かされます。殿様のことを知ることも大切ですが、江戸時代の庶民の暮らしぶりや庶民の社会がどのように運営されているかを知ること、歴史を学ぶ一つの意味かと、生意気ですが感じていきます。ごではまたお便りします。ご自愛ください。

(稲荷台 柴田伸一)

河童の川流れ？

リュウノスキスト(芥川龍之介研究家、愛好家)の間では『子供の病氣』に出てくる「しほむき」は解決しているのだろうか。

「自分は色の悪い多加志の額へ、そつと唇を押しつけて見た。額は可也火照っていた。しほむきもぴくぴく動いていた。」(傍点 村田)

「ぴくぴく」と動くのは幼児の頭部では「鼻の穴」「まぶた」「こめかみ」が思い浮かぶが、発音上も字面(じづら)の形も「しほむき」とは違いすぎる。

そこで次に浮かんだのが「泉門」である。泉門とは『大辞林』に依ると、「新生児の頭蓋骨がまだ縫合していないとき、中央前寄りにある軟らかい部分。鼓動のたびに動くが、成長に伴い閉じる。ひよめき。おどり。額門」となっているが、この「ひよめき」ではないか。

芥川は稀代の言語感覚に鋭敏な人であったが、下町育ちのせいかわ「ひ」と「し」の区別が可成り曖昧であった。

例えば「ひつきりなし」と書くべきところを「しつきりなし」と表記するのはごく当たり前で、却って「しつきりなし」を標準語化してしまうべく、故意に使っている感さえする。

『悠悠荘』には「姫路茸」が出てくるが、これも恐らく「しめじ」のことであろう。「ひよめき」も従って芥川の耳には「しよめき」と聞え、それが「しよむき」になり、いつの間にか「しほむき」になつてしまつたと考えるのは如何なものであろう。『広辞苑』に「ひよめき」が出ていて「ひよめきの訛」となっている。

(新白井田 村田長保)



11月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等の修正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

わくろ道

「こんなことって無い？」
テレビを観ていて横に居る女
房に聞く。

「この俳優の名前、何てたっ
け？」

愚妻曰く。「あ」から言つて
思い出しなさいよ！」と冷たい
態度。正に愚妻としか言い様な
し。

そこで、私のいつもの「あ、
い、う、え、」で答え探し
が始まる。

さらに「今日は何日？」とか

あとがき

今年も鈴鹿で開催された、F
1グランプリでの極限の世界か
ら得られた技術は一般車の開発
に還元されます。環境問題の対
策であるハイブリッドカーもそ
の成果の一つです。

私は今春カレッジに入学し、
ここで知り合った友人達の様
な才能に刺激を受けました。例
えば六月に筑波大学の齊藤教授
による「佐倉・房総のゆかりの
作家たち」の授業で波の伊八に
ついて学んだ後、八月にはクラ

「夕べのおかずは？」等々最近モ
ノ忘れが多い。

ボケかなと、心配になるがこの
程度は度忘れとか。

事があると「言った筈！」と強
気にでる愚妻。「聞いてませ
ん」と、小さな声で自信無さ
気な私。

でも、何だかんだ言いながらも
毎日が仲良しのジジババ二人だけ
の生活である。

(田中修司)

又有志の発案にて総勢三十数人
で、波の伊八ゆかりの行元寺、飯
縄寺への観賞研究バスツアーに
行き欄間彫刻を見て来ました。実
際の伊八の作品を見る事で理解
が深まりました。この様に学習し
た事をまた自分達で確認する行
動力は、私には思いもつかないこ
とでした。私もカレッジでの学び
や体験を通して今迄の人生で培
ってきたものを周囲や、ひいては
社会に還元できるようになりたいと
思います。

(田中 勲)